

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

株式会社ミットヨ 呉工場

(2) 事業所の所在地

広島県呉市広古新開6丁目8番20号

(3) 業種

精密測定器製造業

(4) 事業所位置図
別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成30年度(2018年)を基準年度とし、令和元年(2019年)から令和12年度(2030年)までとする。

3 計画の基本的な方向

環境に対する私達の行動

ミットヨグループは、「精密測定で社会に貢献する」を経営理念として掲げ、精密測定機器の開発設計、製造、販売、サービスを通して、精密測定機器をお客様に提供しています。私達は、社是に謳う「良い環境」に拘り、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つである事を認識し、地球環境に影響のある事業活動、製品、及びサービスの全てにおいて、全員参加で環境マネジメントシステムの継続的維持改善を図り、地球環境保護と環境汚染の予防に取り組みます。

1. 私達は、事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響を低減させるために、自主的な環境マネジメントシステムを構築します。
2. 私達は、事業活動全般について、法規制、条例、並びにミットヨグループとして受け入れを決めたその他の要求事項を順守します。
3. 私達は、地球環境の保全及び環境汚染を予防するために次の事項に取り組みます。
 - ①二酸化炭素排出量の削減
 - ②環境配慮型製品の開発・設計
 - ③省資源・省エネルギーの推進
 - ④廃棄物の削減・再資源化の推進
 - ⑤有害化学物質の削減
4. 私達は、環境目標を設定し、定期的に見直し、環境パフォーマンスの継続的向上を図ります。
5. 私達は、環境方針の教育・啓発活動を行い、ミットヨグループで働く人及びミットヨグループのために働くすべての人に対し、周知します。
6. 環境方針は、社内外に公表します。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成 3 0 （2018） 年度	令和 5 （2023） 年度
二酸化炭素	4, 390	4, 263

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成 （ ） 年度	令和 （ ） 年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成 （ ） 年度	令和 （ ） 年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス （ H F C P F C S F ₆ N F ₃ ）		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（t-CO₂）、削減率（%）

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成30(2018)年度)	削減目標		目標年度 (令和12(2030)年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂	4,390	50.0	2,195	2,195
非エネルギー起源CO ₂				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量		-		0
目標設定の考え方	二酸化炭素排出量を2030年までに2018年度比で50%削減する			

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

単位：排出量(t-CO₂)、原単位置量(kg等)、削減率（%）

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 () 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和 () 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂				#VALUE!			
非エネルギー起源CO ₂				#VALUE!			
メタン				#VALUE!			
一酸化二窒素				#VALUE!			
その他 温室効果ガス				#VALUE!			
総排出量				#VALUE!			
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)	-	-		0.0	-	-	
目標設定の考え方							

※ 削減率(d) = { (c) - (g) } / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置及び目標並びに具体的な取組

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	二酸化炭素排出量削減	二酸化炭素排出量を2030年までに2018年度比で50%削減する	・2022年～2026年までにグリーン電力調査・準備期間 ・2027年1月～グリーン電力導入 ・2022年～2030年 省エネ活動による前年比1%削減
2	エネルギー使用量削減（地球温暖化防止）	原油換算エネルギー使用量を生産高原単位で2019年度を基準に2020年度から2024年度までの5年間で10%削減する。	・改善活動に依る生産性の向上、不良数不良率の削減。 ・身近な省エネ活動の推進（暖房便座カバーは降ろす） ・電力監視システムに依るムダの発見と対策実施。 ・エアーリーク調査実施。

※ 「原単位」で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること。

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合 計 量
1		
2		
3		

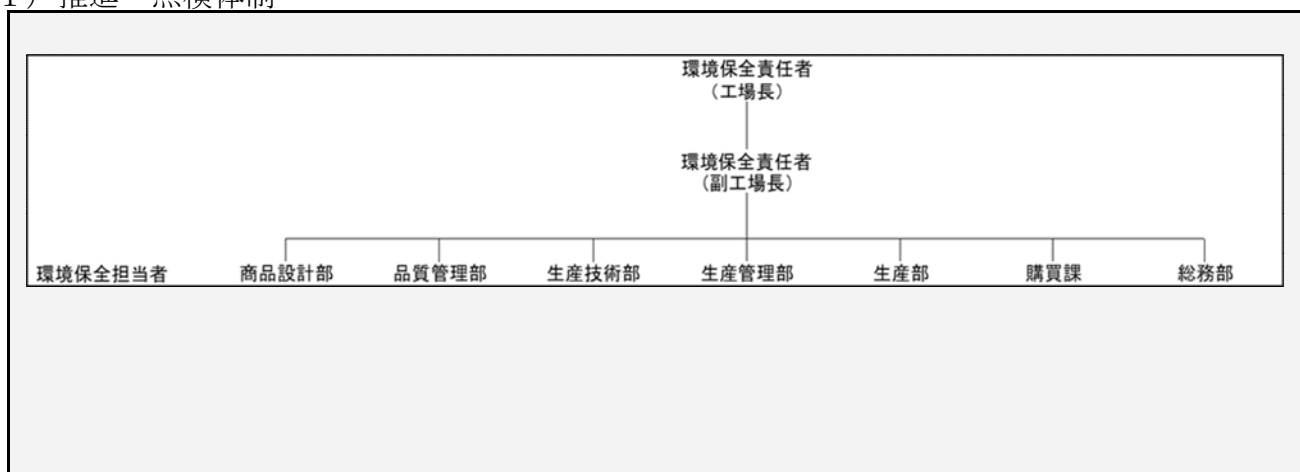
○ その他の取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	廃棄物排出量の削減	廃棄物排出量を生産高原単位で2019年度を基準に2020年度から2024年度までの5年間で標10%削減する。	・部品納入荷姿改善（通い箱化）に依る包装資材の廃棄物量削減。 ・改善活動に依る生産性の向上、不良数不良率の削減。
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

エネルギー使用量/廃棄物排出量/温室効果ガスの排出量の把握, 結果を定期的に全社環境事務局へ報告。

(3) 計画書等の公表

年度環境報告書にて、事業活動と環境負荷をミットヨグループの事業活動による環境負荷量をミットヨホームページのサステナビリティ・CSRにて公開。